

新エネルギー事業に進行中！

草原の草をエネルギーに変えるバイオマスエネルギー地域システム化実験事業が、平成19年度からの本格稼働に向けて準備が進められています。実験では、未利用となっている野草を効率よく収集し、ガス化発電設備で電気や熱エネルギーに転換しアゼリア21に供給する地域循環型エネルギーシステムの構築を目指しています。こうした取組みは日本では初めてで、草資源の有効活用モデルとして全国的にも注目されています。

今回の事業で最も重要な野草の収集運搬業務で活躍しているオペレーターの方々がいます(表紙参照)。作業は未利用草地で行うため傾斜がきつく危険で困難ですが、草原の維持保全・エネルギーの地産地消に一役買いたいと志願され連日頑張っています。

市民の皆様、この事業とオペレーターの方へのご理解、ご協力をよろしくお願いします。



▲高性能の機械で、採草作業を行う。



本塚で環境に配慮した「火文字焼き」



「阿蘇の火まつり」のメインイベント「阿蘇の大火文字焼き」で、使用済み天ぷら油などの廃油を利用して作る『バイオディーゼル燃料(BDF)』を今年本格的に使用します。BDFは植物性燃料なので、燃焼して排出する二酸化炭素量は、植物が吸収する二酸化炭素量と同じといわれ、環境を考えた仕組みとして注目されています。

昨年、試験使用し、炎の燃え上がりなどを検証。結果、BDFは以前の灯油と同等の燃え方をするということがわかりました。灯油より割高ですが半分の使用量で済むのでコスト面でもメリットがあります。今回は、本塚(農村公園あびか側)だけの使用で3月17日、午後6時半に点火します。

学校版環境ISOコンクールで波野中学校が優秀賞！

県内の小中学校を対象にした平成18年度「学校版環境ISOコンクール」が実施され、波野中学校が優秀賞を受賞しました。このコンクールは、子どもたちが自ら考え行動することで、環境に優しい心や問題解決にかかわる能力をはぐくんでもらうことが目的。坂梨校長先生も、「日本で大切にされてきた『もったいない』というすばらしい心で、今一度自分たちの生活を見直してほしい」と意欲的に環境活動を推進。子どもたちは、「もったいない運動」としての取組目標や新聞記事、環境保全に関する情報などを掲示するとともに、家庭や地域でも環境活動を行っています。

他の市内小中学校もこの環境活動に取り組んでいます。



▲校内のろうかに掲示している「もったいない掲示板」